

渋谷区立渋谷本町学園

第1回 進路説明会資料



令和5年4月21日(金)実施
教育カリキュラム部 進路指導

◇学校長挨拶

本校では、年度初めに第1回進路説明会を実施しています。その目的は

- ① 進路決定に向けて1年間の見通しをもつ。
- ② 進路決定に際し、日々の学習活動や学校生活の重要性に気付く。の2点です。

進路学習に関して「始めるのが早すぎる」ということはありません。4月当初からこの2点を意識して毎日の学校生活を送ることにより、希望する進路が実現する可能性は高まります。

学校では学力の定着や充実を図っていくとともに、進路の実現に向けて必要な情報を速やかにお知らせいたします。この渋谷本町学園9年間で見守ってきた個性や可能性を踏まえ、教職員一同全力で指導・支援をしてまいります。また、進路を最終的に選択・決定するのは生徒自身並びにご家庭となりますので、ご家庭で、じっくりと進路について相談する時間をとっていただき、何か疑問点等があれば、いつでも遠慮なく学校にご相談ください。

最後に、9年生の皆さんに心がけてほしいこと3点を挙げます。

- 自分でよく考え、行動し、その結果については自分で責任をもつ。
- 目標をもち、最後まであきらめずにやり抜く。
- 自信や成長の基礎となる規則正しい生活を意識的に心がける。

渋谷本町学園は生徒の皆さんの夢や希望が実現することを精一杯応援します。皆さんの頑張りを大いに期待しています。

◇近年の社会や教育の流れについて

近年の日本は、DX(Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション)や AI、IoT の普及により、未来社会 Society 5.0 の到来を迎えています。また、少子高齢化・人口減少が進行する中で、日本では労働力の確保が重要な課題となっています。そして、グローバル化や情報化の急速な進展など、変化の激しい時代を生きる子供たちには、自ら世界に挑戦し、多様な価値観をもった人々と協働していくための基盤となる力を総合的に育成することが求められています。

このような社会の大きな変化に適応できる人材の育成を目指し、教育の世界でも、現在、大きな改革が行われています。代表的なものとして、

- ①国立大学改革 文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成など
- ②高大接続改革 高校・大学入試・大学の3つが一体となった教育改革
- ③高校教育改革 普通科改革やアクティブラーニング型授業の導入

などが挙げられます。東京都でも、全都立工業高校が令和5年度から都立工科高校に名称変更になり、より先進的なデジタル技術やロボティクスに特化した教育活動に取り組んでいくことが発表されました。また、都立高校入試は男女別の定員制を段階的に廃止する方向で、ここ数年、実施されてきました。そして令和5年度入試の調査書では、出欠席の欄が削除となりました。このように、国公立、私立問わず、多くの上級学校が現代社会に求められる教育活動を行おうと変革を進めています。それにより、入試の内容や方法も大きく変化してきています。生徒の皆さん、是非、最新の情報を得て、未来を見据え希望に沿った進路選択ができるよう、1年間、ベストをつくしていきましょう。

I 7～9学年のキャリア教育

渋谷本町学園では小中一貫教育校の良さを活かし、小学校時のキャリア教育を土台にして、3年間を通して幅広く社会を知り、将来への展望のもとに自らの進路を考え、主体的に進路を選択できる力を付けるキャリア教育を行ってきました。各学年の主な学習内容は次のとおりです。

7 学年:職場体験学習(3日間)

8 学年:上級学校調べ

9 学年:希望進路先見学・進路相談

これらを通して直接希望する上級学校を確かめ、自ら調べることで生徒自身が進路に対する意識を高め、自己の意志と責任において進路を選択・決定できるようサポートしています。

II 渋谷本町学園の進路相談の基本方針

- ①本人と家庭の意志・希望を尊重する。
- ②幅広く正確な情報・資料の収集に努め、迅速かつ分かりやすくまとめ提供する。
- ③本人の特性や個性に応じ適切なアドバイスを行う。

III 渋谷本町学園中学校推薦基準

① 目的意識

志望校の教育理念や求められている生徒像を理解して、強い進学の意味をもっていること。

② 学習意欲

意欲をもって授業に参加し、学力の向上、心身の向上に積極的に取り組んでいること。

③ 生活態度

学校代表としての自覚を持ち、中学生としての基本的な生活習慣やマナーを身に付け、生活のきまりを守った身なりや行動ができること。

④ 高校の推薦基準

推薦入学を希望する学校の提示した成績基準を満たしていること。

⑤ その他

学級活動、生徒会活動、部活動などの諸活動に、熱心かつ継続的に取り組んでいること。また、進路先においても、上記1～4に当てはまる行動をとり、努力を続けられる者。

合格後も周囲に配慮し、中学校卒業まできちんと生活できる者。

⑥ 以下の事項に該当する者は、推薦入試対象者にはなりません。

- ・反社会的で処罰の対象となる行為をし、指導を受けた者。
- ・学校生活のきまりを守らず、以下のような行為を繰り返し、反省が見られない者。
(授業エスケープ、授業妨害、暴言、暴力、器物破損、菓子類飲食、その他迷惑行為)

IV 進路関係日程



V 中学校卒業後の進路

1 就職について

職業安定所の紹介による場合と、縁故による場合がある。前者については厚生労働省ホームページ内「東京労働局」に詳しい情報が掲載されています。

2 進学について

(1) 中学卒業後に進学できる上級学校

① 高等学校

義務教育の基礎の上に、一般的な教養や専門的な技術を身に付けることを目的とした高等教育を行う学校。

国立	東京都立・各都道府県立	私立
・国立大学の附属高校 ・大学と連携して研究も行う。	・東京都や各都道府県が設置、運営。 ・学校ごとに求められる生徒像や特色がある。	・個人や各種団体が設立、運営。 ・学校ごとの特色や校風がある。

○普通科

- ・一般教科の学習を中心に、幅広い教養を身に付けることを目的としています。
- ・都立高校にはコース制を取り入れ、外国語・造形美術・国際・自然科学・文化・健康スポーツ・看護福祉などのコースを設けている学校もあります。
- ・国として普通科高校改革を行っています。
- ・私立高校でも大学進学に焦点化したコースや、英語、体育などを重点的に学ぶコースを設けている学校もあります。

○専門学科

- ・各分野の職業人となる基礎を学ぶ職業教育や芸術などの専門分野の教育を目的としています。
- ・商業・工業・農業・国際など、都立高校には様々な学科があり、多様化しています。

○総合学科

- ・普通教科、専門教科の枠を超えて、幅広い選択科目の中から生徒が自分の能力・適性・興味・関心・進路希望などに応じて主体的に学習内容を選択します。

○全日制

平日の昼間に授業を行う学校教育の課程。

○定時制

1日の中で定められた時間内に授業が行われる。17:00頃から21:00頃まで授業がある夜間定時制のほか、1日を三部や四部に分けている昼夜間定時制がある。修業年限は4年だが、3年で卒業できる学校もあります。

○通信制

通信(教材・課題報告・レポート)による添削指導と、スクーリング(面接指導)を行います。

○学年制

1年ごとに一定の単位を取れば進級できます。

○単位制

自分で教科・科目を選択し、必要な単位数を3年間で取れば卒業できます。

○多様なタイプの都立高校

- ・チャレンジスクール…不登校経験などをもつ生徒が自分の目標を見付けられるよう支援します。学力検査はなく、基礎・基本を重視した学習を行います。他にも職業系を含め様々な専門科目を設置しています。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯(午前・午後・夜間の三部)を選んで入学します。
- ・エンカレッジスクール…小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら学校生活を充実させる全日制の高校。学力検査はなく、きめ細かな学習指導、多彩な体験学習を特徴です。

②高等専門学校(高専)

工業・航空・商船の専門的技術者を養成することを目的とした高等教育機関。修業年限は5年(商船高等専門学校は5年6か月)。一貫したカリキュラムにより、一般教育及び専門教育を行う。卒業後は短大と同じく「準学士」の学位が得られ、大学3年への編入もできます。

③高等専修学校

職業に必要な技術を身に付けることを目的とした教育を行う学校で、授業時数や教員数、生徒数、校舎面積などで一定の条件を満たしているもの。工業、農業、医療・衛生、教育、社会福祉、商業実務、家庭服飾、文化教養などの学科があります。学科によって、卒業後専門学校や大学に進学することもできます。

④各種学校・サポート校

高等専修学校と同様に、様々な技能を身に付けることを目的とした教育を行う学校。学校認可に必要な授業時数、教員数、生徒数、校舎面積などの条件が、高等学校よりも緩やかで、規模は様々です。教育内容は調理、美容、工業、経理、ビジネス、外国語、芸術、芸能、服飾、家政、スポーツなどの専門学科や、通信制学校の補習を目的としたものや、大学入学資格検定(大検)を受援するための予備校など多種多様。

※専修学校と各種学校の違い

	専修学校	各種学校
修業年限	1年以上	1年以上 簡易な課程については、3か月以上も可
入学資格	高等課程:中卒以上 専門課程:高卒以上 一般課程:独自に規定	課程に応じ、独自に規定

専修学校の高等課程(高等専修学校)には学科によって1年制から5年制まで様々なコースがあります。

3年制を卒業すると、専門課程(専門学校)に進学することもできます。

⑥職業能力開発センター

労働希望者に対して専門的な職業技術教育を行い、就職への道をつくることを目的とした学校。厚生労働省の認可によって設置されています。

(2)学費について

①高等学校にかかる学費(令和5年度 東京都平均)

	受験料	入学金	授業料(年間)
私立高校	23,322 円	253,113 円	483,311 円
都立高校	2,200 円	5,650 円	118,800 円
国立高校	9,800 円	56,400 円	115,200 円

②助成金について

・高等学校等就学支援金制度…家庭の状況に関わらず、高校生等のみなさんが、安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国公立を問わず、高等学校等の支援として家庭の教育費の負担を軽減する制度。

(文部科学省ホームページ参照)

・私立学校等授業料軽減助成金事業…都内在住で私立学校等に通う生徒の保護者の方の経済的負担を軽減するため、授業料の一部を助成する制度。

(東京都私学財団ホームページ参照)

③奨学金制度について

上級学校に進学することを希望していても、家庭の経済的な事情によって、進学することが困難な場合には、学費の一部を毎月貸与(卒業後に返済する義務がある)、または給付(返済しなくてもよい)してくれる奨学金制度があるので、これを利用して進学することができます。制度によって、貸与型・給付型の別やその額、受給できる資格条件などが異なります。また他の奨学金の給付を受けていないことが条件となるものも多いです。

○主な奨学金

- ・公益財団法人私学財団
- ・渋谷区の奨学資金制度
- ・あしなが育英会
- ・渋谷区の母子及び父子福祉資金

このほかにも高校が独自に類似の制度を行っている場合もあります。なお、奨学金・貸付金制度を利用するに当たっては、様々な要件があるので、詳細は各制度の相談窓口へ問い合わせの上、申し込みをご検討ください。また、受給については進学先の高等学校等が生徒本人に代わって受け取り、授業料に充てる場合もあり、学校によっては、一度保護者が授業料を納入した後に、還付する場合もあります。

これから受験に臨む生徒の皆さん・保護者の皆さまへ

VI 高等学校の選び方

1 進路選択の基準

(1)入学まで:入試問題の難易度、入試形態…

希望の上級学校に入るには、入試を突破しなければなりません。自分にその力があるか、しっかり見極めましょう。入試科目は多くの場合、私立高校は3科目、都立高校は5科目です。また推薦入試では面接や作文があるなど、入試の形態はさまざまです。

入試に向けての得点力は夏休みのように、まとまって学習のできる期間に伸びることが多いです。得点力アップを目指して意気込むことは大切ですが、結果が伴わないこともあります。日々努力を重ねて自分の実力をしっかり把握しましょう。

また入試とは、高等学校がどんな生徒に来てほしいかというメッセージでもあります。出題される入試問題の傾向なども、その学校の校風を知るための要素の一つといえます。

(2)学校の特徴、学校生活:授業、部活動、行事、施設設備、通学、校風…

高校入学後の学校生活について積極的に情報を集めましょう。通学時間、授業の様子、校則などは毎日の生活に関わることです。「自分に合っている」「この学校なら頑張れそう」と感じられる学校を選びましょう。行事や部活を重視したい人もいますが、毎日の授業や生活が充実して送れる学校を選びましょう。

例えば、都立高校には進学指導重点校やスーパー・サイエンス・ハイスクール、英語教育推進校など、東京都より指定されて特色を打ち出している学校があります。希望する学校が、何をスクールミッションとしているのかを、十分に理解して学校選択をおこないましょう。

(3)卒業後:進学先、就職先…

高校卒業後も、自分で進路先を決定しなければなりません。就職、進学など進路はさまざまです。それぞれの学校が進路指導に関する方針をもっています。これまでの卒業生の進路先なども調べることができます。特定の大学への指定校推薦枠、取得できる資格などからもその学校の特徴が見えてきて、進路決定の参考になります。

2 進路選びの材料

(1)中学校にある情報(進路スペース)

中学校に届く進路先の情報は9学年教室前の進路スペースを活用して発信します。また、質問があれば教員に聞いてください。部活動体験などの情報は顧問に聞いてみてもよいでしょう。

(2)高校等が発信する情報(説明会・相談会・体験授業、ホームページ、文化祭など)

各学校が発信する情報はホームページなどを参照して、随時確認しましょう。新型コロナウイルス感染症の拡大により、来校できる機会が減った昨今、学校紹介動画など、ホームページの内容が充実してきています。またオンラインでの個別相談や説明会も多く開かれています。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症も第5類に移行するなど、社会情勢が変わってきています。学校説明会などにも変化があることが予想されます。興味のある学校のホームページを見るところから始めましょう。

個別相談会などは複数回来ることを勧めている学校もあります。どの学校に行くかはご家庭で十分に相談して、可能であれば保護者と訪問してください。事前予約が必要なものもあり、すぐに定員に達してしまう場合もあるので、申し込みは早めに行ってください。訪問した際には担当の方と話をし、来校の記録を残しましょう。また文化祭を

はじめとする学校外の人たちも入場可能な行事もあります。興味のある学校には積極的に行きましょう。訪問する際には、どんな場合でも緊張感をもち、中学生としてふさわしい態度をとりましょう。

(3)会場テストの結果

インターネットや書店で申し込む会場テストは自分の実力を知る良い機会です。学習したことが定着しているかが確認でき、自分の実力に合う進路先を判断する材料となります。実際の入学試験の雰囲気を経験する機会としても利用できます。夏に力試しで1回、秋に学習の成果を見て受験校を決める手がかりとするために1回、入試直前に入試の練習として1、2回、というようにそれぞれの時期に合わせて目的をもって受けることもできます。

(4)先輩や家族の話

その学校に進学した人から直接話を聞く機会があると、その学校の様子がよく分かります。しかし、進路先について知るきっかけにはなりますが、自分の進路先の選択肢に入れるかどうかを判断するためには、必ず学校を訪問しましょう。

Ⅶ 入試制度

1 都立入試

(1)推薦入試

- ・1校を選んで出願し、合格したら必ず入学します。
- ・倍率は平均約3倍で一般入試よりも競争率が高いです。
- ・定員の上限は普通科で全体の20%(コース制30%)です。
- ・調査書点、面接、作文・小論文、集団討論をもとに選考を行います。(実技検査を行う学校もある)
※近年は新型コロナウイルス感染症の影響で集団討論は実施されていません。
- ・推薦枠等については11月上旬の募集案内で示されます。

○文化・スポーツ等特別推薦について

- ・運動や芸術などの能力を評価する、各校の個性化や特色化推進のための推薦。
- ・調査書点、個人または集団面接、実技検査をもとに選考を行います。(作文・小論文などを実施する学校もある)
- ・同一校の一般推薦と文化スポーツ等特別推薦を受検することもできます。(検査料は2倍になる)

(2)一般入試(一次募集・前期募集)

- ・1校を選んで出願し、合格したら原則入学します。
- ・選考は学力検査(入試得点)と調査書(内申点)の合計点(総合得点)をもとに行います。(面接や作文・小論文、実技を実施する学校もあります)
- ・学力検査点と調査書点の比率は7:3と6:4の高校があります。
- ・学力検査はほとんどの学校が5教科。特定の教科の配点に比重をかける学校もあります。
- ・多くの高校で共通問題が出題されますが、一部の高校では独自の問題(国・数・英)を出題します。
- ・調査書点は「換算内申」を300点満点に換算したものです。

「換算内申」(65点満点) = 5教科の評定 + 4教科の評定 × 2

- ・学力検査点は5教科の点数(500点満点)を700点満点に換算します。

(3)一般入試(第二次募集・後期募集)

- ・第一次募集で募集人員に達しない学校では、第二次募集を行います。
- ・募集人員を前期と後期に分けて募集する学校もあります。

(4)自己PRカード

- ・入学試験で面接を実施する場合には、点数化はしませんが面接資料として活用します。
- ・面接がないときには、入学手続き後、高校に提出します。
- ・入学を希望する理由、中学校生活の中で得たこと、高校卒業後の進路についてなどを書きます。
- ・各学校が示す「本校の期待する生徒の姿」を参考にして書きます。

(5)ESAT-J(英語スピーキングテスト)

- ・令和5年度より、英語スピーキングテストを実施し、そのスコアを調査書に記載。
- ・令和6年度入試の実施日 令和5年 11月 26日(日) 予備日:令和5年 12月 17日(日)
会 場 都立学校、大学、民間施設、都有施設等
- ・実施の概要について、4月中に、中学校を通じて生徒及び保護者に案内を配布します。
- ・実施に関する詳細な事項は、5月に公表する「実施要項」に記載されます。

2 私立入試

(1)推薦入試(単願推薦)

- ・出身中学校長の推薦が必要。
- ・志望する高校が定める推薦基準を満たしている必要があります。
- ・第一志望であり、合格したら必ず入学します。
- ・一般入試より合格の可能性は高いです。

(2)一般入試

①併願優遇

- ・他の公立や私立が第1志望であるが、第1志望が不合格だった場合には必ずその学校に入学することを条件に、他の一般受験より優遇され受験する制度。
- ・志望する高校が定める推薦基準を満たしている必要があります。
- ・推薦入試より基準は高い。
- ・第一志望が公立の場合、延納(入学手続きを合格発表まで待ってくれる)等の措置があります。

②一般入試(フリー)

- ・推薦枠を除いた人数が募集枠となるため、募集が少なく、実質倍率が高くなることがあります。
- ・当日の入試得点で合否を決定します。
- ・日程が重ならなければ何校受験しても良い。

③入試相談について

- ・推薦入試や併願優遇を受ける場合に必要となります。
- ・12月15日を中心に実施されます。
- ・私立高校と中学校の教員の間で行われ、その受験生の実績などを伝えます。
- ・推薦入試や併願優遇を利用する場合は、入試相談までに高校を訪問するとともに、入試要項の確認をしてください。

Ⅷ 最後に…

1 生徒の皆さん

(1)納得のいく進路選択のために…

①積極的に高校情報を集めよう

変化の激しい現代社会の中で、これまでの伝統を引き継ぎながら、より社会に適応した教育内容へと変革を進めている学校も多いです。それに伴い、入試内容や方法も毎年、変化しています。将来、社会の中で生きていく自分の姿を想像しながら、イメージで学校選択をするのではなく、各学校の特色や教育内容を十分に理解した上で学校選択を行っていきましょう。その為に、積極的に、学校情報を集めていってください。

②早目の準備をしよう

入試があるのは、推薦が1月、一般が2月と聞くと、先の事というイメージがあるかもしれませんが、その前には出願や入試相談、学校説明会などがあります。よく考えて、慎重に判断することは大事ですが、「出願までに決まればいいか…」という気持ちで入試に向けての準備がおろそかになってはいけません。日常の中学校生活での授業や行事等と並行して、会場テストを受けたり、得点力アップのための勉強をしたり、定期考査の対策をしたりしなければいけません。推薦に向けて作文や面接の練習もします。大事なときに力を発揮するためには、早めの準備を心がけましょう。

③複数の科目をバランスよく勉強しよう

学力検査は3教科か5教科であることが多いです。どの教科もバランスよく取り組むことが大切です。苦手な科目は基礎を定着させることに力を注ぎ、得意な科目は応用的な問題にチャレンジしましょう。そして、どの教科にもしっかり時間をかけましょう。夏休み中のまとまった時間がとれる時には、理科や社会など7年生からの総復習が必要になる教科に取り組みましょう。加えて、英語や数学などでつまずいたところを徹底的に学び直し、基礎を固めることが大切です。夏休み明けは2回の定期テストを中心に、中学校の学習にたくさん時間をかけます。受験に向けての方針が確定する11月や12月位からは入試過去問などの実践的な問題を解く機会も増やしましょう。このように、少しずつステップアップする学習をイメージしましょう。

④実力を伸ばす努力・知る努力をしよう

自分に合った進路を見付けるけるためには、得点力アップのために勉強することが大切です。これは「実力を伸ばす努力」です。それだけでなく「実力を知る努力」も必要です。会場テストなどを通じて、自分の得意・不得意や得点力を把握しましょう。入試の形式はさまざまです。作文や面接が得意な人もいれば、そうでない人もいます。自分の適性も見極めて進路を選択できるようにしましょう。また、みなさんのことを見守ってきた保護者の方々もみなさんの一番の理解者であり、みなさんを一番応援してくれる方です。十分に話し合い、自分の進むべき道を考えましょう。自分の実力を知る努力を重ねることで、自分の成長や変化も感じるすることができます。進路決定までの長い時間で、成長を実感し、自信を付けられると良いですね。

(2)日々の生活を大切に…

①日々の授業や生活を大切に

定期考査前や入試が近づいてくると、不安な気持ちになり、常に受験向けの勉強をしたくなる場合があります。しかし、日々の中学校での実技教科を含んだ授業や、委員会・係活動、運動会・学習発表会などの行事に真剣に取り組むことが大切です。一見、受験勉強に関係が無いように感じますが、日々当たり前に行う生活を大切に

姿勢が、受験で力を発揮する原動力となります。また、計画的に学習を行うことで、気持ちに余裕をもって日々の生活を送れるようになります。1年間、日々の生活を大切にしていきましょう。

②健やかな心・体を維持しよう

定期テストの直前は睡眠時間をけずって学習することができても、進路決定までの長い期間、それを継続することはできません。朝早く起きて昼はしっかり活動し、夜はよく眠る、生活リズムを整えることで体にも心にも良い影響があります。体力や集中力が養われ、ポジティブな気持ちになれます。無理し続けることはできません。長期休みなどでも生活リズムを正しく、大事な時に十分に力を発揮できる心と体をつくりましょう。

③人から良い刺激をもらおう

進路決定までの長い期間、落ち込んだり、イライラしたりすることもあるでしょう。怠けてしまう日もあります。そんな時に悩みを話せる友人や家族との関係を大事にしましょう。他者の何気ない一言で、安心できることもあるはず。先生たちにも気軽に相談してください。また、仲間は大切ですが、人と比べすぎないようにしましょう。皆さんが決めるのは自分の進路で、最終的には自分で判断することが大切です。人の良いところを真似しようという姿勢は大事ですが、自分のペースを大切に、継続的に頑張れる条件を整えていきましょう。

(3)良い卒業を迎えるために…

進路決定とは、受験の合否だけに集約されるものではありません。長い人生の中で、重要な決断を繰り返し、皆さんは自分の人生を自分の力で切り拓きます。進路決定は自立に向けての重要な一歩です。また、3月には渋谷本町学園からの卒業を迎えます。長い間、共に過ごしてきた仲間との時間は大変貴重なものです。進路が決まった後も、前向きな姿勢を忘れず、学校生活を充実させてください。受験では思いどおりの結果を得られる人もいればそうでない人もいます。仲間と切磋琢磨し、互いを尊重する最高学年として気持ちよく卒業していきましょう。

2 保護者の皆さま

(1)何かあればご相談を

進路を決めるにあたって、不安なことや知りたい情報がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。進路決定に向けてはご家庭と学校の連携が重要です。インターネットなどで進路関係の情報は集めやすくなりました。それでも一人一人の置かれている状況は違い、目標も違いますので、皆さんのニーズに合った情報が全て得られるとは限りません。教員との対話を通して素朴な疑問を解決できることもあります。また、ご家庭での学習や生活の様子、気になる変化などありましたら教えていただくと幸いです。

(2)小さな変化を喜びましょう。

生徒達にとっては前向きに学習に取り組める環境が大事です。学力が思ったように伸びず、保護者の皆さまも焦りを感じることもあるかもしれません。そんな時には数字以外の面での成長にも着目してください。自分から勉強をするようになった、ニュースに関心をもち意見を言った、生活リズムを意識して生活できている、など、進路決定に向けての長い道のりの中で生徒は多くのことを学び変化していきます。私たちもそのようなあらゆる面での生徒の成長を学校生活の中で日々感じています。ぜひその喜びを保護者の皆さまと共有し、進路決定までの前向きな雰囲気をつくっていきたいと思います。

資料1 都立高校の種類について

令和5年度「東京都立学校に入学を希望する皆さんへ」より(東京都教育委員会ホームページで閲覧可能)

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/exam/pamphlet2023_japanese.html

1 普通科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

2 普通科(コース制)

普通科の一部ですが、皆さんの興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年次から語学系、美術系のコースに分かれて学習します。深川高校(外国語コース)、片倉高校(造形美術コース)、松が谷高校(外国語コース)、小平高校(外国語コース)があります。

3 総合学科

共通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。自分の生き方や将来の進路を考える「産業社会と人間」を全員が学習し、科目選択に生かします。

4 農業に関する学科

農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、農業生産物の栽培や飼育を通し、自然に親しみながら専門的な知識やバイオテクノロジーなどの技術を身に付けます。

5 工業に関する学科

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、専門的な知識やものづくりの技術・ハイテク技術などを身に付けます。

6 工業に関する学科(デュアルシステム科)

企業でものづくりの長期就業訓練を授業として受け、実践的な技術・技能を身に付けます。企業と生徒の合意により、卒業後、就業訓練先の企業に就職することもできます。

7 科学技術科

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。科学技術高校及び多摩科学技術高校に設置しています。

8 ビジネス科・商業科

経理、情報処理などの商業の分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指して、専門的な知識や技術を身に付けます。

9 ビジネスコミュニケーション科

激変する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を目指します。英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系及び人文科学系大学への進学を目指します。大田桜台高校及び千早高校に設置しています。

10 情報に関する学科

高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるため、情報の各分野に関する知識と技術を習得します。新宿山吹高校に設置しています。

11 産業科

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。従来 of 学科の枠を超えた新たな学科として、橘高校及び八王子桑志高校に設置しています。

12 海洋国際科

海洋について様々な視点から学び、海洋課題に対応できる人材を育成します。都立高校で唯一、大島海洋国際高校に設置しています。

13 家庭に関する学科

家庭生活に関する専門科目の学習を行うことにより、衣食住、保育、看護や介護などの知識や技術を身につけます。赤羽北桜高校、農業高校、瑞穂農芸高校及び忍岡高校に設置しています。

14 福祉に関する学科

各種福祉施設、病院、保育園などで実習や体験学習を行いながら人間尊重の精神をしっかりと身に付け、社会の援助者として行動できる人材を育成します。赤羽北桜高校及び野津田高校に設置しています。

15 理数に関する学科

理数系の幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、新しい価値(イノベーション)を生み出すことのできる人材を育成します。立川高校に設置しています。

16 芸術に関する学科

音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人材の育成を目指します。総合芸術高校に、「音楽科」、「美術科」及び「舞台表現科」を設置しています。

17 体育に関する学科

体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道などの専攻に分かれた専門の学習を行います。駒場高校及び野津田高校に設置しています。

18 国際関係に関する学科

国際関係、日本の伝統文化、異文化理解などに関する学習や、自分が設定した課題を深く学ぶ課題研究型の学習を行います。また、外国語(英語など)の高度な運用能力を身に付けることを目指します。こうした学習を通して、豊かな国際感覚を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人材を育成します。国際高校に、英語のほか、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国語などを学ぶことができる「国際学科」を設置しています。また、海外の大学への進学を目指すためのコース「国際バカロレアコース」を設置しています。

19 併合科

二つの学科を一つの学級に編制している学校もあります。これを、併合科としています。全日制では、大島高校(農林・家政)、三宅高校(農業・家政)、八丈高校(園芸・家政)があります。定時制では、瑞穂農芸高校(普通・農業)があります。